

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



春の黄土高原スタディツアーでは張家口市蔚県の代王城鎮でマツを植えた

Contents

- 第24回総会のご案内 P2
- 東北海岸林再生活動・自然と親しむ会のご案内 P3
- 2018 黄土高原スタディツアー日誌より P4～5
- 大同緑化協力25年の軌跡 P6

2018.5
181

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク

認定 NPO 法人 緑の地球ネットワーク 第 24 回総会のご案内

緑の地球ネットワークは今年で 27 年目をむかえます。張家口市蔚県での活動は今年で 2 年目となり、4 月の GEN ツアーには 10 名が参加し、現地の人と植樹に汗を流し、子どもたちと交流してきました。協力の歴史は大同に比べてまだ浅いですが、今後も着実に経験を重ね、よい協力関係を築いていきたいと思います。また、今年度から「蔚州郷土樹木園」のプロジェクトがスタートします。

国内では自然と親しむ会の実施、東日本大震災の津波被害地の海岸林再生の取り組み、関東 brunch の西伊豆合

宿など、今年も引き続きおこないます。

いっぽうで GEN の会員は年々減少しています。また、会員の高齢化も進んでいます。会が長く続いてきた証ではありますが、より若い層が GEN の活動に参加し、今後につなげていくためにどうすればよいか、総会に参加してぜひみなさんのご意見をお聞かせください。

今回、総会前の記念講演には速水林業代表で林業家の速水亨さんをお招きし、環境に配慮した持続可能な林業についてお話をお伺いします。

会員のみなさんには後日資料をお送

ります。

【緑の地球ネットワーク第 24 回総会】

○日時：2018 年 6 月 16 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分

○会場：大阪市立西区民センター第 4 会議室（大阪市西区北堀江 4-2-7 tel. 06-6531-1400 地下鉄千日前線・長堀鶴見緑地線「西長堀」駅すぐ）

○記念講演：13 時 30 分～15 時『日本林業と持続可能な木材消費』

○講師：速水亨さん（速水林業代表）

○総会：15 時 20 分～16 時 40 分

【総会後の懇親会のお知らせ】

○会場：北堀江 ほおずき

○時間：17 時～19 時まで

○参加費：4,500 円（ソフトドリンクのみの方は 3,500 円）

○申込み：6 月 13 日（水）までに GEN まで。会員以外のかたも参加できますのでお気軽にご参加ください。

桜、樹齢 1500 年の岐阜県の薄墨桜はエドヒガンだそうです。

満開のエドヒガンの群生を過ぎて台場クヌギの小道に入る。このクヌギ林の景観も日本林業遺産に指定されている。台場クヌギは炭焼作業の中で生まれたものです。菊炭を作る材料として地上 1～2m のところで幹を切り、その切口から生える新しい幹の伐採を長年繰り返すことにより、ずんぐりした形になります。高い位置で切るのは、鹿など動物に新芽を食べられないようにするためです。全国的にも珍しく天然記念物に値する、と言われているほど貴重な文化財ですので大切にしましょう。

ふたたび、ふれあい広場に戻って昼食と、たっぷり休憩をとって、午後の見学に備える。次はスキー場にあるような、「一人乗りのリフト」に乗って山頂を目指す。15 分ほど歩いて妙見山山頂に到着する。標高 660m で、南方向に大阪方面がかすかに見えるのだが、どこか確定できない。能勢妙見山本殿にお参りして、ここで解散となる。

まだ時間が早いので、以前から見たかった中山寺のコバノミツバツツジを鑑賞して、満ち足りた気持ちで帰路につく。ありがとうございました。

春の妙見山を満喫した 1 日

岡田 憲政 (GEN 会員)

4 月 17 日、前中代表と歩く「野の道」シリーズ⑥エドヒガンのお花見をおこないました。19 名が参加し、満開のサクラを楽しみました。

4 月 7 日（土）妙見山の花見に行ってきました。妙見口からバスで黒川（ケーブルの駅）まで行き、山上駅にむかう。この沿線でもサクラは満開でちょうどいいタイミングに來たと心が躍る。

ケーブルを降りて、ふれあい広場への道では両側に新芽の淡い緑がとても心地よい。ケンボナシの説明等を聞きながら、ほどなくふれあい広場に到着する。

さっそく、前中先生のエドヒガンの説明が始まる。妙見山に群生するエドヒガンは川西市の天然記念物に指定されたのを記念して、群生地代表格であるこのサクラの名前を全国募集して「出会いの妙桜^{たえぎくら}」と命名したそうです。「エドヒガン」

①バラ科サクラ属の落葉喬木で野生種の一種である。彼岸頃に花を咲かせることから、この名前がつけられた。ソメイヨシノよりやや早く、3 月下旬から

4 月上旬に花を咲かせる。花は薄紅色、白色でソメイヨシノと比較して小さい。

②花が多く咲く特性から、多くの品種の母樹として使われている。例えばソメイヨシノはエドヒガンとオオシマサクラとの雑種です。

③エドヒガンはヤマザクラと同様に非常に長寿で知られています。例として、樹齢 2000 年の山梨県の神代



東北海岸林 再生活動

参加者
募集

前中代表と歩く
「野の道」シリーズ⑦
西宮市北山
緑化植物園を歩く

名取市のゆりりん愛護会は東日本大震災の津波被災地の海岸林再生のため、マツを植えて育てる活動を続けています。GEN は今年もゆりりん愛護会と協力し、海岸林再生のための植樹祭に参加します。ツアーに参加して震災の復興、再生の状況を見守りませんか。

○日程：9 月 16 日（日）昼ごろ～17 日（月）16 時ごろ。仙台空港集合、解散

○費用：12,000 円程度（ホテル代、レンタカー代含む。昼食、夕食代は含まない）費用は参加人数によって変動します。

○定員：10 名

○内容：植樹祭への参加、被災地見学
※詳細は次号でご案内しますが、参加をご希望の方は GEN 事務所までお早めにお知らせください。

李克強国務院総理 歓迎レセプションで あいさつしました

日中平和友好条約締結 40 周年記念・李克強国務院総理歓迎レセプションが 5 月 10 日、東京で開催され、駐日中国大使館の招待を受けて高見邦雄副代表が出席しました。会場には各界の人びと 1400 人が詰めかけ、熱気に包まれました。両国の総理がそれぞれ挨拶し、この間の対立と決別し、友好と協調の新しい歴史へ歩みをすすめることを強調し、熱烈な拍手を受けました。

李克強総理が退席するさいに、先導の程永華大使に手招きされて前にでると、程永華大使は緑の地球ネットワークが長く山西省で緑化協力をつづけてきたことを総理に紹介してくれました。大使は大同の協力プロジェクトを訪れ、自分でも木を植えたことがあります。李克強総理は、中国の環境改善への貢献に深く感謝しますと述べ、固い握手を交わしました。

北山緑化植物園には 1500 種以上の花や樹木が植えられ、見本園や展示温室、花壇、庭園など市民が自然を楽しむ場として親しまれています。今回は北山緑化植物園から甲山森林公園までを歩き、自然観察を楽しみます。

○日時：2018 年 6 月 2 日（土）10 時～14 時ごろ

○場所：北山緑化植物園（兵庫県西宮市北山町 1-1）、甲山森林公園（兵庫県西宮市甲山町 43）

○集合：10 時に阪急電鉄「夙川」駅南口。駅からバスで移動します。帰り

はバスで阪神西宮駅へ、または仁川駅か甲東園駅まで歩いていくこともできます。

○定員：20 名程度

○案内：前中久行さん（GEN 代表 元大阪府立大学大学院教授）

○参加費：500 円（保険料を含む、別途バス代がかかります）

○持ち物：ハイキングできる服装・靴、弁当、飲み物、帽子、敷物、雨具

○申込み：5 月 30 日までに名前、生年月日、連絡先を GEN まで。



小石川植物園で春の自然観察

宮下 利江 (GEN 会員)

4 月 22 日、小石川植物園で関東 brunch の自然観察会をおこないました。13 名が参加しました。

全国的に季節はずれの暑さとなった 4 月 22 日（日）、本当に久しぶりに緑の地球ネットワーク関東 brunch の自然観察会を、都内にある小石川植物園（東京大学大学院理学系研究科付属植物園）で開催しました。小石川植物園は日本最古の植物園で、台地、傾斜地、低地、泉水地といった地形の変化に富んでいて、多彩な植物が配置されています。薬園が発点なので人の役にたつ植物が紹介されていて、園内の一部はかつて女人禁制だったとか。

当日は 13 名が参加し、緑の地球ネットワーク顧問、桜井尚武さんの案内で昼食休憩をはさみ、4 時間ほどかけてのんびり散策しながら樹木や薬用植物などの特徴を観察しました。数日來の暑さで、本来なら 5 月中旬に見頃を迎える植物の花などが一斉に開花していました。白いヒラヒラをたくさん揺らしていたハンカチの木、関東地方では珍しいヒトツバタゴ、ユリノキ、ガクウツギなど普段あまり見られない植物がちょうど見頃で、樹木好きだけでなく、お花好きの参加者も楽しめたと思います。事前に桜井さんが送ってくだ

さっていた一週間前の写真では咲き始めただったリンゴの花やヤマフジの花はすでに終わりに近く、あっという間に季節が過ぎていく今年の春を実感しました。桜井さんは樹木の生態や特徴だけではなく、樹木の経済的な価値や木材としての優劣に関することを取り入れられ面白い話をたくさんしてくださいました。また参加者の皆さんが目の前にある植物の由来や歴史、ご自宅の植物との比較などをいろいろな角度から話し、活発に議論されていたのも関東 brunch らしい楽しさでした。初対面の方もお久しぶりの方もひとつの植物を見上げたりそばに近づいたり触れたりしながら和気あいあいとした楽しい会になりました。





2018 年春 黄土高原スタディツアー

2018 年春は 4 月 14 日～ 19 日の日程で GEN ツアー(11 名)が張家口市蔚県を訪問しました。今号ではツアー日誌から抜粋してご紹介します。

● 4 月 15 日(日)

【山本隆明記】

7 時朝食。蔚県名物の小米稀飯(粟のお粥)がとてもおいしい。いろいろな豆類を使った糊糊(穀物スープ)もあった。私は韮包子(肉まん)も油条も食べたが、これもおいしかった。

7 時 30 分、全員でホテルから 10 分ほどの文化公園に行く。人口 52 万人の蔚県にしてはたいへん広い公園で、朝早くから多くのグループが太極拳やダンスなどを楽しんでいる。我々の目的は朝市で、公園の北側の広場に沢山の店がでていた。

小米、紅豆、大豆などの雑糧(雑穀)、肉、魚、果物、野菜、調味料、中薬(漢方薬)、日用雑貨などで、蔚県の産品だけでなく、他地域の産品も豊富だ。特に果物は南の芒果や西のハミ瓜なども見られた。ダンボール箱を使った長距離のトラック輸送が可能になったからであるが、人々の食生活がより豊かになることはいいことだと思う。

9 時、ホテル出発。ガイドは郭艶紅さんで、蔚州博物館に。この博物館も人口 52 万人の蔚県には似つかわしくないほど立派な博物館で、省立博物館といわれても恥ずかしくないような内容だった。博物館内の案内は館内ガイドの武瑜琨さんで、とても丁寧で判りやすい説明だったが、なにせ旧石器時代から明清の時代まで全 5600 余りの文物とその解説、2 時間余りの見学ではとても見きれものではなかった。ほとんどがこの 30 年間に発掘、発見された当



蔚州博物館の展示物に見入る

地の文物で、国宝レベルのものも多数あり、ぜひとももう一度来て見たいと思わせる博物館であった。館蔵図録がまだ作られていないのも残念である。(中略)

2 時出発、暖泉鎮に向かう。30 分ほどで到着。3 時から西古堡で舞踏劇《天下第一堡》を観賞。石頭と杏花という若い男女の恋愛を描いたものだが、ストーリーがもう一つよく判らない。劇中では蔚県の民間伝説、民間芸能を多数取り込み、最後に当地最大の伝統的パフォーマンス“打樹花”でフィナーレとなる。劇のストーリーはともかく、蔚県が見せたいものを全部見られた感じで、飽きることなく楽しむことができた。特に“打樹花”の鉄の火の粉が花火のように城門に降り注ぐ様は、たいへん壮大で美しく、見ごたえのあるものであった。



趣のある町並みの暖泉鎮

● 4 月 16 日(月)

【唐戸ティニャットウイ記】

植樹現場では、現地の農家の皆さんが既に準備をして待っていてくれた。スコップを手に取り、穴の中に入れられた苗の根元に土をかける作業をひたすら繰り返した。

はじめはぎこちなかったが、慣れてくるとなかなか面白く、スイスイ進み、周りの方々にも「上達したね」と誉められた。と言いつつ、運動不足の体にはやはりキツイ作業だった。明日のためにも今日はしっかりマッサージして、なるべく疲れを残さないようにしようと思う。

現地の方々とは言葉が通じなかったが、笑顔とボディランゲージと時々通訳により、なんとかコミュニケーションをとって終始なごやかな雰囲気の中で作業をすることができた。この時間で「差不多」という中国語を覚えた。意味は「まあ、大体そんな感じ」というニュアンスの言葉だ。細かいことは気にしないおおらかな中国人を表す言葉のようで、何だか気に入ったので、これだけは覚えて帰ろうと思った。

昼食を済ませた後は小学校に移動し、子どもたちと先生方と交流した。子どもたちは歌で歓迎してくれたが、小さな体から発せられるパワーのある歌声ならぬエネルギーを感じた。物にあふれていない環境で生まれ育ったからだろうか、目の前にあることを純粋に楽しめ、一生懸命になって取り組む子どもたちを見て、考えさせられるものがあった。



交流では子どもたちが歌や踊りを披露

● 4 月 17 日(火)

【岡和希記】

植樹作業の 2 日目の朝。連日たくさんのおいしいものをいただいているのでお腹が重い…。加えて、植樹初日の作業のおかげで、適度に筋肉痛。それでも目覚めは悪くない。軽い朝ごはんを食べてホテル周辺の散歩へ。

大きな公園の中ではバドミントン、ジェンズ(足で羽根を蹴るやつ)、カードゲームに興じるたくさんの人。一番目を引くのは大勢でダンスをしている女性集団。「朝から元気だなー」と思うのと同時に「平日なのに仕事や学校は？」と思う。日本の朝でもこれくらい余裕は必要なのかもしれない。

今日の植樹は壺流河の近く、玉壺湿地公園の一画、蔚州郷土樹木園で実施。実は直前になって諸々の事情でフィールドが変更になったようだが、それで

も地元の人たちは朝から準備をしてくれており、レンガなどたくさん埋まっている土地にツルハンで穴を開けてくれていた。

式典を経て植樹作業を開始。ここでも地元の人たちが率先して黙々と作業を進めてくれたおかげでだいぶ早く終了。この土地に緑を復活させたいと願っていることが伝わってきた。郷土樹木園はまだまだ広くあと 3 年をかけて様々な木を植えて標本園にするとのこと。豊かな森が育って蔚州全土から人が集まるような憩いの場になってほしい。そのころにまた戻って自分の目で見たい。



起工式のあと植樹

【高田望記】

午後は蔚州古城めぐり、行きと帰りに車を利用した以外は徒歩で、最初に釈迦寺を見学。天王殿に安置されていた釈迦像、両側の文殊菩薩像・普賢菩薩像、および大雄宝殿の臥仏像はいずれも文革時に破壊されており、あの嵐のような時代の残り香を感じた。臥仏像のほうは複製品が安置されているが、紫檀製のオリジナルが燃やされた時には城中にあの香りが立ち込めたとのこ

と。

釈迦寺からはぶらぶらと、私の専門である電気自転車(スクータ)の解説を時折しながら南安寺塔を通り過ぎ、蔚州署へ。ここはイミテーションのためか印象が薄く、唯一気になったのは“灰色レンガの製法”のみ。続いて城内の中心に位置する鼓楼に登る。本来は時を知らせるための施設で、外敵の来襲を告げる機能もあったとのこと。最後に北門の代わりに存在する玉皇閣にたどり着いた頃には皆さんややお疲れ

気味。それでもなんとか上まで登ってみると午前中に植樹したあたりや周囲に続く城壁が見渡せてリフレッシュできた。

● 4 月 18 日(水)

【山本順子記】

最初に入ったのは焦氏が 3 代にわたって営んでいる工房で、作品とともに製作しているところも見学した。この間の一番大きな変化は彫刻刀の改革といわれた。以前は窓花といわれる窓に貼りつけるかざりが主だったが、現在は毛沢東のような人物、風景、掛軸など多彩になっている。何枚もの切り

絵を重ねてつくられているものもあり、芸術的な面を追及していた。

工房では刀を使う 2 人と彩色を担当する 3 人の女性がいた。どの人もだいたい 10 年位続けているとのこと。切り絵のデザインに 10 年ほど前からパソコンを使っている。ただもちろん、パソコンで全てできるということではない。

現在の焦氏 3 兄弟は 10 代から生活のため切り絵を始めたが、彼らの子どもは学校に行くことを優先している。いずれは後を継ぐだろうということだが、30 年をこえる経験が必要となるような“技”を継ぐのは厳しくなるかもしれないと思った。一方で切り絵村には 20 ～ 30 の工房、店がずらっと並んでいるが、人がいない！ 切り絵は中国全国で販売するにしても、観光客が少なすぎ、先行きが心配だ。



切り絵の色付け作業

2018 黄土高原スタディツアー 参加者募集

初秋の黄土高原で植樹はもちろん、歴史・文化に触れる旅に参加しませんか。
○日程：8 月 25 日(土)～8 月 30 日(木)
○訪問地：中国河北省張家口市蔚県
○定員：30 名程度
○最少催行人員：12 名
○旅行代金：169,000 円(学生割引 20,000 円)※全日空(NH)利用
※国際航空券運賃、燃油特別付加

運賃、空港使用料、航空保険料、中国国内での交通費・食費・宿泊費を含みます。※関西国際空港発着。東京発着便利用ご希望のかた、北京合流ご希望のかたはご相談ください。※旅券取得費用、個人でかける旅行保険料、個人行動時の費用は含みません。※GEN 年会費(一般 12,000 円、学生 3,000 円)を別途お支払いください。
○添乗員：同行しません。GEN スタッ

フが関空発から同行します。
○申込み：資料請求は GEN までご住所、お名前をお知らせください。





大同緑化協力 25 年の軌跡 飲み水に困る村に井戸を掘る

GEN の山西省大同市での 25 年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で 8 回目です。(高見邦雄)

緑の地球ネットワークが大同の農村で実施した協力の中心はいうまでもなく植樹・緑化です。でも、それ以外の協力もあります。たとえば飲み水に困る村に井戸を掘ったこと。

広霊県苑西庄村、霊丘県石瓮村、大同県遇駕山村がありますが、最後の遇駕山村について書きましょう。この村と最初に縁ができたのは、1994 年 8 月に専門家の調査団が遇駕山のマツの植林プロジェクトを見学したときです。1000ha 近い広大な面積にモンゴリマツとアブラマツが植えられていました。山頂付近に小屋があり、護林員の袁老人がいつも詰めており、その後も調査に通ううちに、私たちは親しくなりました。

袁さんは山の麓の遇駕山村の人でしたが、この村は水不足が深刻でした。私たちは 2000 年に 7 県の 21 の村でさまざまな調査を実施しましたが、その



なかに水不足にかんする項目がありました。驚いたことに 21 の村の平均で 1 人 1 日あたり 23.8 ℓ しかなく、なかでも遇駕山村は最悪でわずかに 15.6 ℓ でした。そして水の少ない村ほど水が減っていると答える人が多く、遇駕山村では 70% に達しました。

外務省草の根無償資金協力の助成を受けて井戸を掘ることになりましたが、これが難行しました。掘っている途中でできた砂の層が崩れ落ちて、掘っても掘っても埋まっていきます。鉄のパイプを埋め込んで、それを防いだんですけど、さらに深いところでまた同じ現象が起きたため、場所を移さざるをえなくなりました。

大同事務所の武春珍所長は、「もし水がでなかったら、水がでるまで掘る」という念書を日本大使館に入れていました。夜も眠れなくなったといいます。

采涼山プロジェクトやカササギの森



の地元・大同県聚楽郷の党書記だった張春さんが県の水務局長に就いており、彼の協力を取り付けました。さらに遇駕山村の出身者に井戸掘削会社の幹部がいることがわかり、彼にも協力を依頼しました。それによってやっと水が出たんですね。2008 年のことで、これによって飲み水に困る村は山西省からなくなったそうです。

それと並行して水道塔建設と各戸への水道管理設をしたんですけど、大同事務所の運転手の郭宝青さんが村中の人気者になりました。村に泊まり込み、パワーショベルを運転して水道管工事をしたからです。

日本からの協力ツアーも参加した通水式が感動的でした。村の人たちが輪になって、昔ながらの素朴な踊りを踊ります。最初はニコニコ顔なんです。ところが途中でどこからかすすり泣きが起こり、それが広がっていきました。袁さんと奥さんも泣いていました。日本の俳優・宍戸開さんも BS 朝日の番組収録のために参加していました。

水務局長の張さんは、「あの井戸はあなたが門外漢だから掘れたんだ」と武所長に話したそうです。それまでに何度も失敗しており、水務関係者は掘ろうとしなかったのだそう。そう、黄土高原で緑化協力をはじめたとき、「素人は勇敢だ!」と言われたのですが、私たちに知識があったら、絶対にやらないことを私たちはやり、それを成功させてきたのです。



黄土高原史話 <88>

北魏～東魏を官吏として

谷口 義介 (GEN 会員)

前々回と前回で紹介した酈道元れきどうげんのことは、『魏書』や『北史』に伝が立てられているので、おおむねその経歴を知ることができる。

ところが、『洛陽伽藍記』の著者・楊衒之ようげんしについては、姓も「楊」のほか「陽」や「羊」と書かれるなどまちまちで、その世系も生没年もまったく不明。やむをえず、後世の諸書から記事を拾って推測すると……。

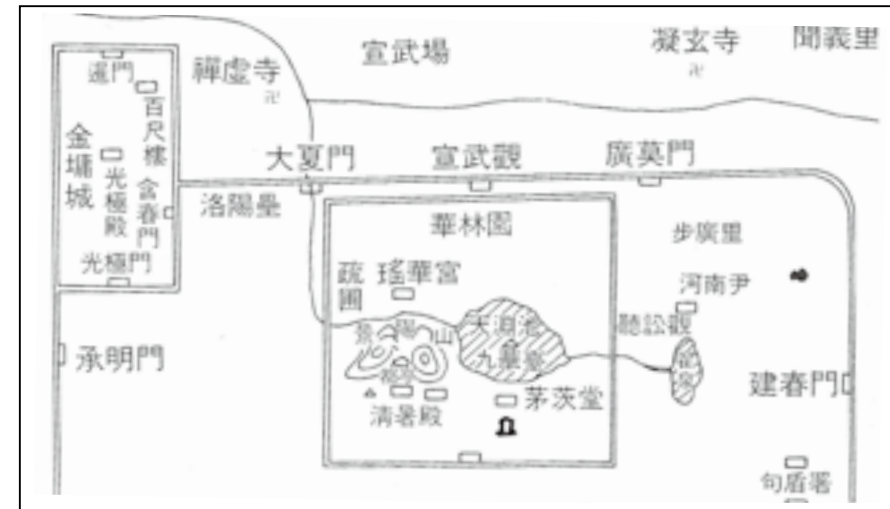
「楊衒之は北平の人なり。元魏（北魏）の末、秘書監と為る」（唐・道宣どうせん『広弘明集』巻 6）
「期城郡守楊衒之」（唐・道宣『続高僧伝』巻 1）

「出でて期城太守と為る」（唐・道世どうし『法苑珠林』巻 119）

これらによると、北平郡つまり今の河北省遵化の出身。北魏の末年、中央で秘書監となったが、おそらくそれよりまえ、期城郡守（太守）として地方に出ていたこともあったらしい。ちなみに期城は湿城の別名で河南省沁陽しんやう県あたりだから、洛陽の北東 70 キロほど。

これとは別に、『洛陽伽藍記』巻 1 にも、楊氏本人に関する記述がみえる。北魏第 9 代孝荘帝の永安年間（528～530）のこと。城内北側の華林園内にあった苗（＝茅）茨堂のまへの石碑をめぐって、帝に供奉していた百官たちが、「苗」の字が誤りではないかと、あれやこれやの大議論。

その時、衒之は奉朝請であったが、すぐさま解釈を下だして、「高で



古切手のご協力 ありがとうございます

日頃、古切手や書き損じはがきの回収にご協力いただき、どうもありがとうございます。

2018 年度、みなさまにお送りいただいた古切手、外国コイン等は換金して 29,524 円になりました。緑化基金として活用いたします。

GEN では書き損じはがき（官製はが

き）、古切手、外国コイン、未使用の切手やテレホンカード（新品）、商品券などを回収しています。

使わずにご自宅で眠っている古切手等がありましたら、GEN までお送りください。みなさまのご協力をお願いいたします。

屋根を葺いたので、それで苗茨と言ったまで。何の誤りがあるのか」と言ったところ、一同みな「なるほど」と感心し、その本義を言い当てていると認めてくれた。（入矢義高訳）

楊氏の得意顔が目に見えるようだが、それはともかく、「奉朝請」とは実官ではなく、宮中での朝会に召されて参内するという榮譽を与えられた地位で、従七品。つまり北魏の末年、楊氏は秘書監、奉朝請としてかなり重んじられていたようだ。

ところが、530 年、孝荘帝は爾朱兆に殺され、534 年、北魏は東・西に分裂。一方の実力者・高歓は孝静帝（534～550 年在位）を擁して河南省北東の鄴ぎように遷都、東魏を立てる。

『洛陽伽藍記』の序文にいう。

永熙の世の動乱〔534 年〕に、帝が鄴に遷都されると、寺々の僧尼たちも同時にそちらへ移っていった。

そのとき楊氏も、帝に従って新都に移ったとみてよいだろう。

翌 535 年、高歓は 7 万 6000 の人夫を動員して鄴に新宮を造り、あしかけ 5 年を費やしてこれを完成、540 年、帝はここに移った。

さらに、上引『伽藍記』の続きにいう。

武定五年、丁卯の歳（547 年）になって、私は役向きの旅の道すがら、再び洛陽を見る機会を得た……。

これでは後の世に伝わらずじまいに終ると思い、そこでこの記録（『洛陽伽藍記』）をものした次第である。

「役向きの旅」のときついていた官職とは、『伽藍記』巻頭の自署にみえる「撫軍府司馬ぶぐんふし」のことだろう。

こうみると楊氏は、北魏分裂の激動期、洛陽から鄴に移って、東魏政権下で職を得ていたわけだ。決して高官とはいえないようだが……。



万博記念公園 みんなで自然調べ隊！

万博記念公園の自然・生きものについて講師に学びながら数・種類を調べてその記録を良好な自然環境づくりにいかしています。1回のみの参加も可能です。

- 日程:5月19日「野鳥」／6月16日「水辺の生きもの」／7月21日「チョウ・トンボ」／10月13日「キノコ」／11月24日「どんぐり・紅葉」／1月12日「冬の野鳥①」／2月23日「冬の野鳥②」
- 時間:10時～12時30分ごろ※雨天決行
- 場所:万博記念公園内自然文化園・日本庭園(吹田市千里万博公園1-1)
- 交通:大阪モノレール「万博記念公園駅」より徒歩6分
- 定員:各20名(先着順)
- 参加費:各回大人300円・中学生以下100円
- 問合せ・申込み:はがき、ファクス、e-mail、電話にて氏名・性別・年齢・住所・電話番号を下記までご連絡ください。

*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。
*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

絡ください。公益社団法人 大阪自然環境保全協会(〒530-0041 大阪市北区天神橋1-9-13 ハイム天神橋202 tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103 e-mail: office@nature.or.jp URL http://www.nature.or.jp)

区麻布十番1-5-5 tel. 03-6274-8920 fax. 03-6274-8711 e-mail: info@ecolifefair2018.com URL http://ecolifefair.env.go.jp/index.html

エコライフ・フェア 2018

6月5日は環境の日です。環境についてちょっと考えるイベントに参加しませんか。

- 日時:6月2日(土)11時～17時、6月3日(日)10時～17時
- 会場:代々木公園ケヤキ並木(NHKホール前/イベント広場)(渋谷区代々木神園町、神南2丁目 tel. 03-3469-6081 JR山手線「原宿駅」表参道口徒歩3分)
- 入場無料
- 主催:環境省
- 問合せ:エコライフフェア2018運営事務局ダスキンレントオール麻布十番イベントセンター内(担当:須田、豊田、小原) 〒106-0045 東京都港

小夏とたまねぎの ご案内

今年もおいしい小夏とたまねぎはいかがですか。

◎土佐小夏

A	5kg	4,400円
B	3kg	2,800円
C	家庭用5kg	3,200円

◎おいしい玉葱(低農薬、有機肥料)

白たまねぎ	5kg	2,200円
〃	3kg	1,400円

※送料別途。関東860円 関西650円(20kgまで)

※売り上げの一部をGENに寄付していただいています。ご注文の際は『GENの紹介』とひとことそえてください。

【注文先】田中農園 田中隆一さん
〒781-7412 高知県安芸郡東洋町河内203 (tel./fax.0887-29-2500 e-mail tanakan3@cronos.ocn.ne.jp)